

授業概要

入学以来 3 年間学んできたことをベースとして、各自が適切な研究テーマを決めて、研究を着実に進めて最終的に卒業論文を完成させるための指導をします。その過程でとりわけ重要な点は、第 1 に論文の着眼点や目的をはっきりさせ自分の論文のオリジナルな貢献を明確化すること、第 2 に先行研究のサーベイを実施すること、第 3 に研究テーマに沿って必要な情報なデータを収集し、それらを分析、考察していくこと、そして最後に得られた結論を適切にまとめることです。

授業計画

第 1 回	卒業論文完成までのプロセス確認	第 16 回	中間報告 1
第 2 回	卒業論文計画書の検討	第 17 回	中間報告 2
第 3 回	卒業論文計画書の再検討	第 18 回	追加情報とデータ収集に関する報告 1
第 4 回	先行研究サーベイの報告 1	第 19 回	追加情報とデータ収集に関する報告 2
第 5 回	先行研究サーベイの報告 2	第 20 回	追加情報とデータ収集に関する報告 3
第 6 回	先行研究サーベイの報告 3	第 21 回	追加情報とデータ収集に関する報告 4
第 7 回	先行研究サーベイの報告 4	第 22 回	追加情報とデータ収集に関する報告 5
第 8 回	先行研究サーベイの報告 5	第 23 回	問題点の再整理 1
第 9 回	情報とデータ収集に関する報告 1	第 24 回	問題点の再整理 2
第 10 回	情報とデータ収集に関する報告 2	第 25 回	主要な結果の報告 1
第 11 回	情報とデータ収集に関する報告 3	第 26 回	主要な結果の報告 2
第 12 回	情報とデータ収集に関する報告 4	第 27 回	主要な結果の報告 3
第 13 回	情報とデータ収集に関する報告 5	第 28 回	卒業論文執筆の経過報告 1
第 14 回	問題点の整理 1	第 29 回	卒業論文執筆の経過報告 2
第 15 回	問題点の整理 2	第 30 回	卒業論文の完成
		第 31 回	要旨の作成

到達目標

- 独自性と意義のあるテーマを設定することができる。
- テーマに関連した各種の情報やデータを収集、加工するとともに、得られた結果を適切に解釈することができる。
- 各回のゼミにおいて、進捗状況を適切に報告することができる。
- スケジュールを適切に管理して、着実に論文を執筆することができる。
- 完成した論文の内容や意義を、わかりやすく発表することができる。

履修上の注意

論文を執筆するというのは、大変な労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

予習・復習

卒業論文の執筆というものは、それぞれの学生がテーマ選択から完成まで主体的に取り組む課題ですので、各自が授業での指摘や議論を踏まえて、前向きに作業を進めていくことが重要です。

評価方法

各回の報告 40%、論文の意義や独自性 30%、最終的な完成度 30%。

テキスト

参考文献等は、適宜指示します。

授業概要

これまでの各レポートとは異なり、4年間で最も関心を持つことが出来たテーマを選定し、1つのテーマについて真剣に考え、絞り込み、テーマに関する文献収集を行い、論理的な思考の訓練を行い、疑問に思うことを徹底的に調べ、掘り下げる必要がある内容を発見し、仮説を立て、研究目的にそって、論旨を組み立て、論文を書き上げるまでの一連のプロセスにおいて指導を行う。

授業計画

第1回	卒論とレポートの違い	第16回	序論完成
第2回	論文完成までの計画の立て方	第17回	論旨の展開確認
第3回	文献講読の仕方	第18回	本論完成
第4回	批判的に文献を読む	第19回	図表完成
第5回	文献収集	第20回	引用文献リスト完成
第6回	英語文献に挑戦	第21回	結論完成
第7回	先行研究	第22回	論文全体の吟味
第8回	研究目的の設定	第23回	本文完成
第9回	仮説の設定と検証方法検討	第24回	論文点検
第10回	卒論テーマの選定	第25回	最終誤字脱字チェック
第11回	卒論テーマの絞り込み&決定	第26回	論文完成確認
第12回	卒論目次作成	第27回	論文要旨作成
第13回	卒論構成完成	第28回	論文発表資料作成
第14回	研究計画書作成	第29回	発表会プレゼンテーション練習
第15回	中間発表	第30回	まとめ
		第31回	試験

到達目標

- ・1つのテーマについて調べ、まとめることができる。
- ・文献を読み、批判的に検討することができる。
- ・論理的思考が修得できる。
- ・論文を書き上げることができる。
- ・要約を書き上げ、発表会でのプレゼンテーションを行うことができる。

履修上の注意

4年間の集大成としての卒業論文ですので、真摯に取り組んでください。

予習復習

毎回の進捗に応じて、予習・復習を各90分程度しっかり行ってください。

評価方法

卒業論文（要旨を含む）完成 100%

テキスト

教科書や参考書は特に指定しない。必要に応じて授業中に紹介する。

授業概要

3年時の専門演習で、考察対象の企業の「有価証券報告書（一部）」や「ホームページ」の情報を中心とした企業研究を基礎として、卒業論文に取り組む。

卒業論文の作成では、自身の問題意識に対して、どのように取り組んで課題解決するかが大切である。その検討の際には、多くの文献を参照することになるが、その参考文献の明示と、それに対する自身の主張を示すことに重点を置いて指導する。

授業計画

第1回	卒論作成についてのガイダンス	第16回	第2章の提出
第2回	テーマ決定のための資料プレゼン	第17回	第2章の報告（第1グループ）
第3回	テーマ選択理由のプレゼン	第18回	第2章の報告（第2グループ）
第4回	上記プレゼンで生じた課題の検討	第19回	第2章の修正版の報告と検討（第1グループ）
第5回	テーマ考察に必要な資料収集	第20回	第2章の修正版の報告と検討（第2グループ）
第6回	章立ての報告（第1回）	第21回	第3章以降の報告と検討（第1グループ）
第7回	前回の課題解決のための資料収集	第22回	第3章以降の報告と検討（第2グループ）
第8回	上記報告での課題の検討と報告	第23回	これまでの修正事項等の確認
第9回	章立ての報告（第2回）	第24回	結論の検討（第1グループ）
第10回	研究目的と方法の決定	第25回	結論の検討（第2グループ）
第11回	テーマ（仮）と章立ての決定	第26回	結論の報告と提出
第12回	引用・参考文献についての確認と指導	第27回	引用と参考文献の確認と整理
第13回	第1章の報告と討論（第1グループ）	第28回	卒業論文（要旨）の作成と提出
第14回	第1章の報告と討論（第2グループ）	第29回	卒論報告会用のレジューメ作成
第15回	夏季休暇と秋期の計画の報告	第30回	卒論発表会の事前演習
第16回	第1章の提出	第31回	卒論報告会でのプレゼン

※上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・自らが設定したテーマに対し、様々な資料を参照することにより、一定の結論を導き出すことができる。
- ・多様な意見や視点があることを知ることができる。

履修上の注意

- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のキャリアセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。
- ・就職活動と並行して進めることになるので、可能な限り、卒業単位を取得しておくこと。
- ・卒論本体の作成は、ゼミ性が何名であろうと、個別指導になる。

予習復習

予習：多くの参考文献を読む。

復習：課題に対する結論を考え、次の展開を検討する。

評価方法

卒業論文における参考文献の理解 40%程度と、自ら設定した問題意識に対する主張 60%程度として評価する。

テキスト

使用しない。

授業概要

4 月中に各自が卒業論文のテーマを決めた後は、各自、論文の書き方のルールに従って、論文作成を指導します。なお、論文指導は、基本的に個別の指導をします。ただし、必要に応じて、ゼミで、皆の前で発表し、他のゼミ生からの意見や先生からのコメントを受けて、論文を修正する形で、進めます。論文のテーマは、どのような分野から選んでも、どのようなテーマでもよいです。すなわち、教員の専門分野（租税法）の論文である必要はありません。これまでに学んだ科目や、日常において感じるもののうち、「私はこれに興味がある！」「これは問題じゃないか？」「この点が解決できたらいいのに！」、と思うものをテーマにして下さい。卒業論文作成の進行次第は、およそ、下記計画のとおりです(卒業論文の研究テーマは何でもいいですが、下記の授業計画は、仮に、租税法のテーマを選んだ場合の進行を示しておきました)。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：論文テーマ	第 16 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導
第 2 回	論文テーマ：報告・指導	第 17 回	第 4 章（当てはめ検討）報告・指導
第 3 回	論文テーマ：報告・指導	第 18 回	終章（まとめ）：報告・指導
第 4 回	論文テーマ：報告・指導	第 19 回	終章（課題・弱点補強）：報告・指導
第 5 回	文献収集：報告・指導	第 20 回	論理展開の再検討：報告・指導
第 6 回	序章：報告・指導	第 21 回	論理展開の再検討：報告・指導
第 7 回	第 1 章（事案概要・問題所在）	第 22 回	質・内容の向上（第 1 章）報告・指導
第 8 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 23 回	質・内容の向上（第 2 章）報告・指導
第 9 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 24 回	質・内容の向上（第 2 章）報告・指導
第 10 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 25 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 11 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 26 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 12 回	第 3 章（裁判例・解釈検討）報告・指導	第 27 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 13 回	第 3 章（裁判例解釈検討）報告・指導	第 28 回	質・内容の向上（第 4 章）報告・指導
第 14 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第 29 回	質・内容の向上（終章）報告・指導
第 15 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第 30 回	まとめ（最終試験準備）
		第 31 回	最終試験

到達目標

- 1 内容についての到達目標
論理的思考（租税法論文を書くゼミ生の場合は、特に「法的三段論法」）の知識を身に付け、それに基づいた論理的文章を論文において記述することができる。
- 2 作成期日についての到達目標
9 月頃までに、粗々の論文の書き上げ、12 月までに、本文の完成と要旨を作成することができる。

履修上の注意

論文作成は、全員、初めての経験です。論文作成にはルールがあります。そのルールの意味するところは、自分の論文でいうと、どのようなことを具体的にはいうのか、を考えることができると、論文が進みます。どのようなことを書けばいいのかについて気が付くには、他のゼミ生の論文について先生がどのようなコメントをしているのかを聞き取ることが、とても役に立ちます。自分の論文につき、次に、やることは何かが、常に、頭の中で明確になっている必要があります。もし、明確になっていないときは、先生に聞いて、次にすべき作業を、常に、いつも、必ず、頭の中に入れておいて、地道に、着実に進めて下さい。

予習・復習

論文作成の指導を中心とするゼミです。同時に就活もがんばっていただくので、とても、忙しいです。そこで、論文作成の指導内容のポイントを理解して訓練して実行する（論文の執筆を行う）ことが重要です。通常の科目は、授業 1 回（90 分）につき、自宅学修は最低 4 時間が必要です。卒業論文の場合は、調査や論理構成が難しいため、もっと、時間を投入する必要があります。

評価方法

論文の内容(論理的展開の有無、文章の完成度、調査内容の充分さ等)への配点が90%。その他(課題の提出状況、内容、発言、ゼミでの貢献等)に10%配点する。

テキスト

- ・教科書名：なし。

授業概要

専門演習で行った内容を踏まえて、会計や経営を中心としたテーマについてより発展的に検討してもらい、卒業論文の作成を進めていく。

卒業論文の作成の過程においては、自分が書き進めようとするテーマに関してどのような構成で書きたいのかを明確にしていき、その検討において参考となる文献の読み込みや論者の考え方を理解して、自分の卒業論文のまとめ方の参考としてもらいたい。こうした点に注意しながら報告してもらい指導する。

授業計画

第 1 回	卒業研究に関するガイダンス	第 16 回	第 2 章の提出と指導
第 2 回	テーマ決定経過のプレゼン	第 17 回	第 2 章のプレゼンと討論 その 1
第 3 回	テーマ選択理由のプレゼン	第 18 回	第 2 章のプレゼンと討論 その 2
第 4 回	テーマについてまとめるための検討	第 19 回	修正作業 その 1
第 5 回	テーマ関連資料の収集方法	第 20 回	修正作業 その 2
第 6 回	論文構成の報告（章立て）その 1	第 21 回	第 3 章以降のプレゼンと討論 その 1
第 7 回	論文作成に収集した資料の報告	第 22 回	第 3 章以降のプレゼンと討論 その 2
第 8 回	資料の読み込みと検討	第 23 回	作成が完了した部分の修正と確認
第 9 回	論文構成の報告（章立て）その 2	第 24 回	結論部分の検討 その 1
第 10 回	具体的な研究目的および作成の検討	第 25 回	結論部分の検討 その 2
第 11 回	論文テーマ（仮）章立てのプレゼン	第 26 回	結論部分のプレゼンと提出
第 12 回	参考文献や引用文献についての指導	第 27 回	引用・参考文献の整理と記入の確認
第 13 回	序論および第 1 章の報告（その 1）	第 28 回	卒業論文要旨の作成と指導
第 14 回	序論および第 1 章の報告（その 2）	第 29 回	卒論報告会準備（レジュメ・スライド）
第 15 回	夏季休暇中および後半の研究計画指導	第 30 回	卒論発表会リハーサル
		第 31 回	卒論報告会（プレゼン）

到達目標

- ・自分のテーマについて資料を収集し、自分なりの結論を導き出すことができる。
- ・資料やゼミ内の討論を通して、様々な考え方について知り、理解することができる。

履修上の注意

- ・卒業演習は、大学生活の集大成であり、演習時だけでなくその他の学生生活も含めて積極的に取り組む必要があるため、総合的に指導を行う。
- ・就職活動にも積極的に取り組み、論文作成時終盤には、これに集中できる環境づくりに心がけること。
- ・演習時間だけでは、卒業論文の完成が難しい場合が多いので個別指導も行う。

予習・復習

予習：文献をしっかりと収集し、読み込むこと。

復習：検討や指導時のコメントを念頭に、修正に役立つ情報を論文作成に反映させること。

評価方法

卒業論文に活用した参考文献に対する理解 30%程度と演習における討論、プレゼン等の取り組み 20%程度、卒業論文 50%程度として評価する。

テキスト

各自の論文テーマに応じて適宜指示する。

授業概要

大学生生活（勉学面）の集大成として、卒業論文を執筆する。この科目は、卒業論文執筆に向けた研究、および卒業論文執筆そのものを指導する。3年次の専門演習で経験した調査・研究・分析を基盤として、各自の卒業論文テーマを決定する。先行研究をサーベイし、そのうえで「研究の目的」（何をどう明らかにするか）を明確にし、「研究の方法」を検討して、研究を進める。一年間をかけて、本文 19,800 字以上の卒業論文を自律的に執筆して、必要な要旨を提出し、卒業論文発表会で報告する。

この科目で最も重要なことは、卒業論文を執筆するのは誰でもない、あなた自身であるという自覚を持ち続けることである。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	卒業論文執筆進捗の中間報告(1)
第 2 回	卒業論文完成までのプロセス確認	第 17 回	卒業論文執筆進捗の中間報告(2)
第 3 回	研究目的（何を明らかにするか）検討(1)	第 18 回	データ収集・用いる経済理論の議論(1)
第 4 回	研究目的（何を明らかにするか）検討(2)	第 19 回	データ収集・用いる経済理論の議論(2)
第 5 回	研究目的（何を明らかにするか）検討(3)	第 20 回	データ収集・用いる経済理論の議論(3)
第 6 回	研究目的（何を明らかにするか）検討(4)	第 21 回	データ収集・用いる経済理論の議論(4)
第 7 回	先行研究サーベイの報告(1)	第 22 回	データ収集・用いる経済理論の議論(5)
第 8 回	先行研究サーベイの報告(2)	第 23 回	卒業論文執筆状況の確認(1)
第 9 回	先行研究サーベイの報告(3)	第 24 回	卒業論文執筆状況の確認(2)
第 10 回	先行研究サーベイの報告(4)	第 25 回	卒業論文執筆状況の確認(3)
第 11 回	卒業論文「見出し」（論文構成）の検討(1)	第 26 回	卒業論文執筆状況の確認(4)
第 12 回	卒業論文「見出し」（論文構成）の検討(2)	第 27 回	卒業論文本文の最終確認(1)
第 13 回	卒業論文「見出し」（論文構成）の検討(3)	第 28 回	卒業論文本文の最終確認(2)
第 14 回	卒業論文「見出し」（論文構成）の検討(4)	第 29 回	卒業論文要旨の指導・修正(1)
第 15 回	ふりかえりと秋期の計画確認	第 30 回	卒業論文要旨の指導・修正(2)
		第 31 回	卒業論文発表会での発表

到達目標

- (1) 大学生生活（勉学面）の集大成としての卒業論文を書き上げる。
- (2) 論文執筆におけるさまざまなルールや作法（剽窃を厳に慎む、文章のスタイル、自分自身で作成した図や表の入れ方、引用記載方法、注のつけ方、フォントのマナーなど）を習得することができる。

履修上の注意

- (1) 能動的な演習形式であるため、履修生各自の“やる気”が最も問われる
- (2) 原則として、ノートパソコンを持参する（毎回とは限らない、事前に告知する）
- (3) 演習時間割以外の時間に活動し、その際に交通費など費用が発生することがある
- (4) 履修生どうしの意見交換（ディスカッション）を重視する
- (5) やむを得ない事由で欠席・遅参する場合は、必ず演習開始前までに連絡する（無連絡欠席を厳禁する）
- (6) 休日を含む演習時間外での学習やさまざまな作業が想定される
- (7) 卒業論文の執筆に際して、ChatGPT などの生成 AI に卒業論文そのものの執筆を委ねることを禁ずる

予習・復習

卒業論文の執筆は、履修生各自がそれぞれ卒業論文で取り上げるテーマ選択から完成まで主体的で自律的に取り組むものである。したがって、これまでの主たる講義形式の科目での予習・復習とは異なり、履修生各自が演習（4 年次ゼミ）での指摘や議論を踏まえて、継続的に作業を進めていくことが最も重要である。

評価方法

①必要かつ十分な分量を満たし、論理的に執筆した卒業論文 50%、②卒業論文の要旨の作成 10%、③卒業論文発表会での発表 40%、の 3 点で評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 20.Opt 以上が必要条件である。

テキスト

必携するテキストを指定しない。ただし、各自の卒業論文のテーマなどに応じ文献を紹介することもある。

授業概要

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文を完成させることを目的としている。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身に付ける。研究に取り組む過程で、プレゼンテーションなどを行うことにより、研究課題への理解を深め、最終的に論文をまとめるよう指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	関心のある研究論文の発表1	第17回	更なる論文、資料の収集の仕方
第3回	関心のある研究論文の発表2	第18回	方法の検討1
第4回	テーマの設定	第19回	方法の検討2
第5回	先行研究の読解1	第20回	調査・実験の実施1
第6回	先行研究の読解2	第21回	調査・実験の実施2
第7回	先行研究の読解3	第22回	調査・実験の実施3
第8回	先行研究の課題4	第23回	結果の整理1
第9回	先行研究の課題5	第24回	結果の整理2
第10回	問題点の討論1	第25回	考察のまとめ1
第11回	問題点の討論2	第26回	考察のまとめ2
第12回	問題点の討論3	第27回	卒業論文の執筆1
第13回	問題と目的のまとめ1	第28回	卒業論文の執筆2
第14回	問題と目的のまとめ2	第29回	卒論発表予行演習1
第15回	問題と目的のまとめ3	第30回	卒論発表予行演習2
		第31回	筆記試験等(含むレポート)

到達目標

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・これまで学んだことを多面的な視点で考えられる応用力、論理的思考力を習得できる。
- ・4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

履修上の注意

- ・無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- ・主体的に参加すること。
- ・毎回の授業内容をノート等に記録すること。

予習・復習

- ・毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

評価方法

卒業論文(70%)と卒論発表(10%)、筆記試験等(20%)等をふまえ、総合的に評価する。

テキスト

指定しない。

授業概要

各自が適切な研究テーマを決めて、学術研究に真剣に取り組み、卒業論文を完成させるための指導をします。本ゼミの卒論執筆の特徴は、全員で卒論を完成させることです。他のゼミ生の研究発表にも、真剣に考え、コメントを出し合うことで研究の質は高まります。積極的にディスカッションに参加してください。

授業計画

第1回	ガイダンス（卒業論文のプロセス確認）	第16回	中間報告
第2回	卒業論文計画書の検討	第17回	追加先行研究サーベイの報告①
第3回	卒業論文計画書の再検討	第18回	追加先行研究サーベイの報告②
第4回	先行研究サーベイの報告①	第19回	追加データ収集・分析に関する報告①
第5回	先行研究サーベイの報告②	第20回	追加データ収集・分析に関する報告②
第6回	先行研究サーベイの報告③	第21回	卒業論文執筆の経過報告①
第7回	先行研究サーベイの報告④	第22回	卒業論文執筆の経過報告②
第8回	先行研究サーベイの報告⑤	第23回	卒業論文執筆の経過報告③
第9回	データ収集・分析に関する報告①	第24回	卒業論文執筆の経過報告④
第10回	データ収集・分析に関する報告②	第25回	卒業論文執筆の経過報告⑤
第11回	データ収集・分析に関する報告③	第26回	卒業論文執筆の経過報告⑥
第12回	データ収集・分析に関する報告④	第27回	論文要旨の作成（要旨提出）
第13回	データ収集・分析に関する報告⑤	第28回	論文の最終報告（論文提出）
第14回	問題点の整理①	第29回	卒論報告会用のレジюме作成
第15回	問題点の整理②	第30回	卒論発表会の事前演習
		第31回	卒論報告会でのプレゼン

到達目標

- ・独自性と意義のあるテーマを設定することができる。
- ・テーマに関連した各種の情報やデータを収集、分析することができる。
- ・各回のゼミにおいて、進捗状況を適切に報告・発表することができる。

履修上の注意

- ・発表・報告の準備をしっかりとしてください。
- ・ディスカッションは、自分の意見を積極的に発表する訓練の場としてください。
- ・卒業論文執筆に真剣に取り組んでください。

予習・復習

各自が演習での指摘や議論を踏まえて、自ら考えて積極的に研究、卒業論文執筆を進めてください。

評価方法

各回の発表・報告	30%
各回の授業貢献度	20%
卒業論文の完成度	50%

テキスト

なし

授業概要

本演習は、将来の地域経済（学生が関心のある地域）を描き出す演習講座です。
まず、当該地域の現状（プレゼント・デザイン）とその歴史的経緯（パスト・デザイン）について学生にプレゼンテーションしてもらいます。そして、学生自身が今から 50 年後を生きる将来世代になりきり 50 年後の当該地域を描き出し（フューチャー・デザイン）、描き出した地域に至った過程を歴史物語（フューチャー・ヒストリー）として学生にプレゼンテーションしてもらいます。
卒業論文又は卒業研究は、プレゼンテーションの内容に沿って作成してもらいます。
必要に応じて、学外研修又はゼミ合宿を実施します。また、協働できるように春期を中心に大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力します。
卒業論文又は卒業研究の内容を、研究した地域の人々の前で自主的に発表し卒業後も当該地域の発展に自主的に貢献するような自立自走人材を育てることを、本演習の最終目的として指導します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	卒業論文又は卒業研究の概要について	第 17 回	再確認：卒業論文又は卒業研究の概要
第 3 回	プレゼン①：プレゼント・デザイン	第 18 回	プレゼン①：フューチャー・ヒストリー
第 4 回	プレゼン②：プレゼント・デザイン	第 19 回	プレゼン②：フューチャー・ヒストリー
第 5 回	プレゼン③：プレゼント・デザイン	第 20 回	プレゼン③：フューチャー・ヒストリー
第 6 回	プレゼン④：プレゼント・デザイン	第 21 回	プレゼン④：フューチャー・ヒストリー
第 7 回	プレゼン①：パスト・デザイン	第 22 回	プレゼン①：卒業論文又は卒業研究要旨
第 8 回	プレゼン②：パスト・デザイン	第 23 回	プレゼン②：卒業論文又は卒業研究要旨
第 9 回	プレゼン③：パスト・デザイン	第 24 回	プレゼン③：卒業論文又は卒業研究要旨
第 10 回	プレゼン④：パスト・デザイン	第 25 回	プレゼン④：卒業論文又は卒業研究要旨
第 11 回	動画の視聴：未来人になりきる	第 26 回	提出：卒業論文又は卒業研究の要旨
第 12 回	プレゼン①：フューチャー・デザイン	第 27 回	プレゼン①：卒業論文又は卒業研究
第 13 回	プレゼン②：フューチャー・デザイン	第 28 回	プレゼン②：卒業論文又は卒業研究
第 14 回	プレゼン③：フューチャー・デザイン	第 29 回	プレゼン③：卒業論文又は卒業研究
第 15 回	プレゼン④：フューチャー・デザイン	第 30 回	プレゼン④：卒業論文又は卒業研究
	課題：フューチャー・ヒストリーを描く	第 31 回	提出：卒業論文又は卒業研究

到達目標

- ・地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。
- ・卒業論文又は卒業研究を完成させることができる。
- ・地域の発展に自主的に貢献できる。

履修上の注意

- ・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻 3 回で欠席 1 回分にカウントします。
- ・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。参考書は難しい部分もありますが、議論しながら理解できるように指導します。

予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて参考書をよく読むこと。

評価方法

卒業論文又は卒業研究 40%、卒論発表会でのプレゼンテーション 40%、演習などへの取り組み姿勢 20% で評価します。また、毎回出席を取ります。

テキスト

- ・参考書名：フューチャー・デザイン
- ・著 者 名：西條辰義
- ・出版社名：日本経済新聞出版
- ・出版年月：2024 年 7 月 ISBN：978-4-296-11558-7 本体 3,800 円＋税

授業概要

この授業では、スポーツマーケティング、スポーツマネジメントに関連する研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身につけ、卒業論文の完成を目指して指導する。

卒業論文の執筆にあたっては、指導教員とコミュニケーションを取りながら進めていく。また、卒論発表会では、自分の論文を他者に分かりやすく説明できるよう準備し、発表ができるようにすることを目指す。

授業計画

第 1 回	前期オリエンテーション	第 16 回	分析①
第 2 回	緒言の修正①	第 17 回	分析②
第 3 回	緒言の修正②	第 18 回	結果（グラフの作成）
第 4 回	緒言の修正③	第 19 回	結果（グラフの作成）
第 5 回	方法の検討①	第 20 回	結果の執筆
第 6 回	方法の検討②	第 21 回	考察の執筆①
第 7 回	調査の準備①	第 22 回	考察の執筆②
第 8 回	調査の準備②	第 23 回	結論の執筆
第 9 回	調査の実施①	第 24 回	卒論要旨の作成
第 10 回	調査の実施②	第 25 回	卒論仮提出
第 11 回	調査の実施③	第 26 回	卒論発表用のスライド作成
第 12 回	データ整理①	第 27 回	卒業論文発表会リハーサル①
第 13 回	データ整理②	第 28 回	卒業論文発表会リハーサル②
第 14 回	中間発表会の準備	第 29 回	卒論発表会
第 15 回	中間発表会	第 30 回	卒業論文提出

到達目標

本演習は、下記の 2 点を到達目標とする

- ・卒業論文を完成させることができる
- ・卒業論文発表会にて発表することができる

履修上の注意

- ・作成物、論文の提出期限を守ること
- ・卒論発表会には必ず出席すること
- ・スケジュールの管理を行うこと
- ・欠席はしない。やむを得ない事情があって欠席する場合は、連絡をすること（無断欠席しない）
- ・水野ゼミの卒論作成のルールを守ること
- ・指導教員とのコミュニケーションをとること

予習・復習

予習：まずは、自分で調べる。わからないこと、不明点は質問できるようにしておくこと

復習：アドバイスをもとに執筆を進める

評価方法

履修上の注意を守る（30%）、卒業論文の内容（50%）、卒論発表会（20%）

テキスト

- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示します。
- ・必要に応じて資料は配布します。

授業概要

プログラミングおよびデータサイエンスに関して3年次に学んだことを元に、4年次はニューラルネットワークとその応用について学びます。応用として文書生成 AI（GRU モデルと Transformer モデル）を作成します。

また、卒論執筆のための基本事項を確認しながら、各自のテーマに沿って分析と執筆作業を進めます。2回の中間報告を経て、完成した卒論の報告会をゼミで行います。更に学科での発表会の準備を進めます。

卒論執筆の一連の作業を通じて、「プロセスとしてのデータサイエンス」の一連の流れである「課題設定・データ収集分析のデザイン・データ収集とデータ管理・分析・分析結果からの価値創造」の一連の過程を体得してもらうことになります。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	論文の構成と文章表現 図表の扱い・ページレイアウト	第 17 回	卒論の中間報告 2 回目（グループ A）
第 3 回	引用の仕方・参考文献表	第 18 回	卒論の中間報告 2 回目（グループ B）
第 4 回	ニューラルネットワーク (NN) について	第 19 回	Google Colaboratory 設定 1
第 5 回	Keras の基本	第 20 回	Google Colaboratory 設定 2
第 6 回	NN1（クラス分類）	第 21 回	GPT-1 作成 1
第 7 回	NN2（モデル作成 1）	第 22 回	卒論の最終報告（グループ A）
第 8 回	NN3（モデル作成 2）	第 23 回	卒論の最終報告（グループ B）
第 9 回	NN4（GRU と生成 AI）	第 24 回	卒論のまとめ
第 10 回	NN5（モデル作成 1）	第 25 回	発表会用スライド作成
第 11 回	NN6（モデル作成 2）	第 26 回	GPT-1 作成 2
第 12 回	NN7（モデル作成 3）	第 27 回	GPT-1 作成 3
第 13 回	卒論の中間報告 1 回目（グループ A）	第 28 回	GPT-1 作成 4
第 14 回	卒論の中間報告 1 回目（グループ B）	第 29 回	GPT-1 完成
第 15 回	卒論構成最終点検	第 30 回	発表練習
		第 31 回	年間学習内容の確認

到達目標

- ・ニューラルネットワークとその応用について説明できる。
- ・卒業研究を進め完成させることができる。

履修上の注意

1 年間かけて研究を行い卒業論文を完成させます。テーマ選定・データ収集分析のデザイン・データ収集とデータ管理・データ加工・分析の実行・モデル発見・結果の検討・価値創造という一連の過程を卒業研究で行うことでようやくデータサイエンスを本当に理解できることになります。このことをしっかり意識して演習に参加してください。

予習・復習

予習：配布した資料をよく読み込み、ゼミ中の実習がスムーズに進むようにしておいてください。

復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献（学習への積極的関与）40%、卒業論文60%で評価します。

ただし、出席回数が3分の2に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

教科書は使いません。

必要に応じて学習用の資料を配布します。

授業概要

経済・経営分野と情報科学の領域を中心に、専門演習などの授業の蓄積した知識を踏まえて、実証研究を実施する。具体的には、

- ① AI（人工知能）及び 生成 AI に関する研究及び活用研究
- ② フィンテックに関する研究
- ③ 暗号通貨やブロックチェーンに関する研究 などを研究範囲と考えている。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（研究範囲の説明）	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	研究論文の体裁 1（問題と目的）	第 17 回	データ収集方法の検討 1
第 3 回	研究論文の体裁 2（方法部分の記載）	第 18 回	データ収集方法の検討 2
第 4 回	研究テーマの提案	第 19 回	中間構想発表会 1
第 5 回	研究論文の結果の書き方	第 20 回	中間構想発表会 2
第 6 回	考察部分の記載内容について学ぶ	第 21 回	データ分析結果報告 1
第 7 回	引用文献の記載方法について学ぶ	第 22 回	データ分析結果報告 2
第 8 回	テーマの発表 1 と質疑応答	第 23 回	分析結果を図表にまとめる
第 9 回	テーマの発表 2 と質疑応答	第 24 回	考察の執筆について
第 10 回	各ゼミ生の問題点の討論 1	第 25 回	論文の発表 1
第 11 回	各ゼミ生の問題点の討論 2	第 26 回	論文の発表 2
第 12 回	テーマに関する社会への応用について	第 27 回	論文要旨の作成（要旨提出）
第 13 回	秋期の研究スケジュールについて	第 28 回	論文の最終報告（論文提出）
第 14 回	個別相談	第 29 回	発表準備
第 15 回	夏休み中の研究内容の計画提出	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を集めることができる。
- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を読み、内容を理解でき、論文にまとめられることができる。
- ・研究テーマの実証実験を中心に、研究内容を論文として適切にまとめることができる。

履修上の注意

- ・学科の専門必修科目の他、経済・経営、データサイエンス科目群の学習を事前に行う。

予習・復習

- ・発表準備のための予習・発表後の振り返りは必ず行う。
- ・仲間の発表に対しても積極的な質問や意見を発表する。

評価方法

卒業論文又は卒業研究の評価(60%)、発表・ディスカッションへの参加度(20%)、提出するレポート(20%)などにより、総合的に評価します。

テキスト

- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示します。
- ・必要に応じて資料は配布します。

授業概要

これまで大学で学んできたことをベースにして、観光ビジネスや観光関連の事業・活動について現状を踏まえ、自身の問題意識に沿った卒業論文のテーマを設定する。授業通じて個人個人に合わせた指導を行う。卒業論文作成の趣旨は、自らテーマを決めて、それに関わる資料やデータを集め、自分なりに考えて、問題解決の方向性を導き出すこと。さらにそのことを論理的に分かりやすく表現する必要がある。学生時代の貴重な経験として、また今後の社会に出てからの力となるよう真剣に取り組んでほしいと考える。

授業計画

第 1 回	卒業論文作成について	第 16 回	夏季休暇中の進捗報告
第 2 回	卒論のテーマ設定 (1)	第 17 回	事例分析・検証 (1)
第 3 回	卒論のテーマ設定 (2)	第 18 回	事例分析・検証 (2)
第 4 回	卒論のテーマ設定 (3)	第 19 回	事例分析・検証 (3)
第 5 回	テーマを決めて構想を練る	第 20 回	更なる補強資料収集と追加
第 6 回	テーマ発表	第 21 回	卒論中間報告 2 (1)
第 7 回	テーマに沿った資料の検討 (1)	第 22 回	卒論中間報告 2 (2)
第 8 回	テーマに沿った資料の検討 (2)	第 23 回	卒論中間報告 2 (3)
第 9 回	テーマに沿った資料の検討 (3)	第 24 回	引用と参考文献、誤字脱字、チェック
第 10 回	卒論構成の検討	第 25 回	結論の確認 (1)
第 11 回	卒論構成の設定	第 26 回	結論の確認 (2)
第 12 回	卒論中間報告 (1)	第 27 回	卒論要旨発表 (1)
第 13 回	卒論中間報告 (2)	第 28 回	卒論要旨発表 (2)
第 14 回	卒論中間報告 (3)	第 29 回	卒論要旨発表 (3)
第 15 回	夏季休暇及び秋期の作成計画	第 30 回	発表準備
		第 31 回	卒論のまとめ

到達目標

- ・卒業論文を作成して完成させる。
- ・テーマにあった資料や文献を探し読み、論理的思考に基づく文章の展開を行い、自らの考えをきちんと反映したものを作り上げることができる。
- ・他のメンバーや教員、関係者の意見をよく聞いて、卒論を執筆することができる。

履修上の注意

ゼミ活動は、卒業論文を執筆するうえで仲間と協業をする（メンバーの論文について聞くこと、指摘すること）など、様々な壁を乗り越えていく効果が期待できる。できる限り出席率を高める。

予習・復習

卒業論文の作成には、これまでの学習以上に多くの自分の時間をあてる必要がある。その時間に多くの時間をあてることで予習、復習と同様の効果がある。

評価方法

卒業論文と卒論発表（80%）、課題提出や授業での発言、姿勢（20%）等にて評価する。

テキスト

使用しませんが、必要に応じて授業で案内します。